

# 長崎大学薬学部の起源について： 分析窮理所遺構発掘から記念碑建立までの流れ

長薬同窓会副会長・長崎大学薬学部教授 川上 茂（平7）

文久元年（1861）8月、小島郷の丘（現在の西小島）に、日本最初の西洋式近代病院として養生所と医学所が開設された。慶応元年（1865）に養生所と医学所は統合されて精得館と改称、化学教室である分析窮理所も新設された<sup>1, 2</sup>。2025年には分析窮理所が設置された1865年から数えて160周年を迎えることになり、現在、長崎大学薬学部と長薬同窓会は160周年記念事業の準備をすすめている。ここでは、分析窮理所遺構発掘から記念碑建立までの長薬同窓会の対応の流れとその後の動きをまとめる。

2015年（平成27年）10月に旧佐古小学校と旧仁田小学校の統合時における佐古小学校跡地での仁田佐古小学校の建設工事に際し、「小島養生所」と「分析窮理所」の遺構が発掘された<sup>3</sup>。これを契機に医学部相川忠臣名誉教授らによってこれら遺構の歴史的価値の再評価がなされ、その結果を基にして同年10-11月に完全保存に関する署名活動が行われた。遺構建設当時医学部と一体であった薬学部にも協力依頼があり、山中國暉長薬同窓会会長（昭43）（当時）と黒田直敬薬学部長（当時）の指示のもと本部役員のうち薬学部教員が中心となって長崎大学薬学部・長薬同窓会での遺構保存に関する署名活動を行った。長崎新聞の記事によると、保存運動の中で相川名誉教授は、長崎大学医学部・病院関係者や長崎大学薬学部関係者を中心に約1万6千人の署名を集めたとある。署名活動を終えた同年11月に、長崎大学医学部・長崎大学病院と長崎大学薬学部の2者をそれぞれ「小島養生所」と「分析窮理所」遺構の関係者の中心として署名を提出することになり、医学部・病院側より相川名誉教授が、薬学部から黒田薬学部長と山中長薬同窓会長の代理として薬学部川上茂教授・長薬同窓会役員（平7）の2名で長崎市議会を訪問して、長崎市長と長崎市議会に対して遺構の完全保存に関する要望書を提出した。しかし、本要望に対して田上富久長崎市長（当時）は反対、長崎市議会でも否決される結果となった。

しかしその後、医学部と薬学部関係者の署名活動の成果として、遺構の一部保存が実現することになり、コロナ禍の最中となる2021年（令和3年）3月に遺構の整備が完了した。遺構整備の際、長崎大学薬学部および長薬同窓会は、長崎大学医学部・長崎医学同窓会、長崎大学病院、長崎市の関係者と議論し、分析窮理所の歴史的価値や位置づけを再確認した上で、長崎大学薬学部の起源であると結論づけられた。またその際、長崎大学医学部・長崎医学同窓会、長崎大学病院、長崎市の関係者と相談し、尾野村治薬学部長（当時）と山口正広長薬同窓会長（昭56）との協議のもと、分析窮理所建設から155周年（第五高等学校医学部薬学科創設から130周年）を記念した薬学部と長薬同窓会の合同事業として「分析窮理所 長崎大学薬学部源流 発祥の地」と表記した記念碑の建立を行った（写真1）。

2021年3月頃はコロナ禍ということで記念碑の建立のみが実現した状態であったが、コロナ禍の収束が見え始めた2022年（令和4年）6月23日に仁田佐古小学校において、分析窮理所遺構移設完了の記念イベントが開催され、西田孝洋薬学部長の指示のもと旧佐古小学校の卒業生である川上教授・長薬同窓会副会長が「薬学における分析窮理所の歴史的な意義や長崎大学薬学部に至る歴史に関する講義」を仁田



写真1 分析窮理所跡地に建立した記念碑  
(2021年3月)

佐古小学校生徒や丸山町郷土歴史家山口広助氏らの地域住民に対して行い（写真2）、また一緒に薬草を花壇に植樹するなど、長崎新聞、西日本新聞、長崎経済新聞、長崎大学広報にも取り上げられ長崎市民にも広く周知された。

これまで長崎大学薬学部では、第五高等中学校医学部に薬学部が創設されて医学部と明確に区別された1890年を発端としてきた。しかし、これは「学科」設置単位の話での区分であり、江戸時代から明治時代初期頃は医学と薬学が分かれ始めた時期であるため、学問的な分岐点が起源とも考えられる。長い歴史を持つ全国の薬学部の発端をみると、有機化学が急速に発展してきた時期であるため、創薬や医薬品の品質評価に必要となる「化学」や「物理」に特化した教育や研究が行われたことをもって起源としている大学も多い。例えば、金沢大学薬学部は“加賀藩卯辰山養生所に製薬所と薬圃が付設され、「舎密局」が置かれた”ことを起源としている<sup>4</sup>。「舎密」とはオランダ語で化学をセーミということから化学のことを指す。一方長崎では、1865（慶応元）年に化学教室である分析窮理所も新設された<sup>1, 2</sup>。当時の言葉で、「分析」は化学、「窮理」は物理を指す。1866年5月に着任された<sup>1</sup>オランダ人理化学者クーンラート・ハラタマ博士（写真3）が当時の西洋と同等レベルの化学、物理学、薬物学、鉱物学、植物学などの自然科学教育と化学実験を開始したと記録があり、分析窮理所遺構からはそれを裏付ける実験器具も発掘されている。また、分析窮理所遺構には1869年7月に来日し、予科である物理、化学、幾何学等の講義を担当したアントン・ヨハネス・コルネリス・ゲールツ博士<sup>2</sup>が分析窮理所に佇む写真（写真4）がパネルとして設置されている。ゲールツ博士は、東洋では初の医薬品規格書である日本薬局方初版の編纂に尽力したことで知られている<sup>5</sup>。日本薬局方沿革略記には「オランダ人ドクトルゲールツ」と記載されているため薬学関係者はドイツ語読みのゲールツと記載することが多い。これは日本薬局方略記<sup>5</sup>に「明治10年編述の旧稿によらず、別にドイツ文をもって日本薬局方稿本を起草することを議決し」とあり同じく編纂にあたった「ドイツ人ドクトルベルツ」などと統一した読み方で記載する必要があったためドイツ語読みになったものと推察される。今回、長崎大学医学部や長崎市の関係者との議論により、遺構パネルにはゲールツ博士の出身国のオランダ語読み方でヘルツと記載された。国内薬学部の起源を整理すると、長崎大学薬学部は、金沢大学薬学部と共に江戸時代に遡り、国内薬学部で最も古い歴史を誇る（表1）。表2に発掘後の調査で議論され、分析窮理所跡地に設置されたパネルに記載された小島佐古地区における長崎大学医学部・長崎大学病院・長崎大学薬学部およびハラタマ博士やゲールツ博士の動きを中心に記載した年表を示す。1869年に



写真2 分析窮理所遺構移設完了の記念イベントでの仁田佐古小学校の生徒や地域住民に対する講演（2022年6月20日）



写真3 黒い背広のクーンラート・ハラタマ博士

〔長崎大学附属図書館所蔵〕本写真の無断複製・転用を禁止します。



写真4 分析窮理所に佇むゲールツ博士

〔長崎大学附属図書館所蔵〕本写真の無断複製・転用を禁止します。

開校しハラタマ博士が教頭を務めた大阪舎密局は京都大学の前身となった。ゲールツ博士は1875年に京都司薬場の監督の任にある中、日本薬局方草案作成の内命を与えられ、1877年には開港場として発展していた横浜に設置された横浜司薬場に転じながらも、オランダ語の草案をほとんど1人で手書きの4冊として完成させ、1877年に提出された<sup>6</sup>。しかし、1883年に急性の病により横浜の地で40歳の生涯を閉じた。日本薬局方はその後も編纂作業が続けられ、1886年6月25日に初版が公布された。なお、長薬同窓会の寄付で1990年に建設された「柏葉会館」は、その建物の形は分析窮理所（写真5）をイメージしたと長崎薬学史を編纂した際の資料を掲載した薬学部ホームページに記載があり<sup>7</sup>、長薬同窓会では分析窮理所を起源とすることについて当時から強く意識されていたと考えられる。この度、分析窮理所遺構の発掘調査により長崎大学医学部、長崎大学病院、長崎市の専門家・関係者と共に歴史的意義の再評価が行われた結果、長崎大学薬学部の起源であることが確認され、遺構に記念碑と年表が建立されたことの意義は非常に大きい。

2000年4月、大阪大学・工技院大阪工業技術研究所・デルフト工科大学・ユトレヒト大学およびオランダ王立科学芸術アカデミーとの緊密な協力関係のもとで、日蘭友好400周年記念行事の一環として、日本への理化学の移植に多大の貢献を果たしたハラタマ博士の功績を記念し、同博士の名前を冠した「ハラタマワークショップ」が開催された。その後、日本とオランダで交互にワークショップが開催されてきた。2023年5月10～12日には大阪大学理学部・深瀬浩一教授、長崎大学薬学部機能性分子化学研究室・山吉麻子教授と薬品製造化学研究室・石原 淳教授をオーガ

表1 国内薬学部の発端と発端時の名称（発端が古い順から6校まで）

	発端	名称
長崎大学薬学部	1865	分析窮理所
金沢大学薬学部 <sup>a</sup>	1867	舎密局
東京大学薬学部 <sup>b</sup>	1873	第一大学区医学校製薬学科
東京薬科大学薬学部 <sup>c</sup>	1880	東京薬舗学校
名古屋市立大学薬学部 <sup>d</sup>	1884	私立名古屋薬学校
京都薬科大学 <sup>e</sup>	1884	京都私立独逸学校

表2 長崎小島での分析窮理所の年表（分析窮理所に設置された年表をもとに作成）

西暦	主な出来事
1857	ポンペ 医学伝習を開始（長崎大学医学部の源流）
1861	養生所開設（長崎大学病院の源流） 医学所開設（長崎大学医学部の前身）
1862	ボードイン 養生所教頭着任
1865	ボードイン 分析窮理所新設（長崎大学薬学部の源流） 養生所・医学所を精得館と改称
1866	ハラタマ 理化学教師着任
1867	ハラタマ 江戸開成所に赴任
1869	ハラタマ 大阪舎密局開設 ヘールツ* 分析窮理所着任
1875	ヘールツ* 京都司薬場赴任
1876	長崎司薬場創設
1888	県立長崎医学校を第五高等中学校医学部と改称
1890	第五高等中学校医学部に薬学科設置（現長崎大学薬学部）
1891	浦上山里村の新校舎に移転

\*日本薬局方沿革略記ではゲールツ

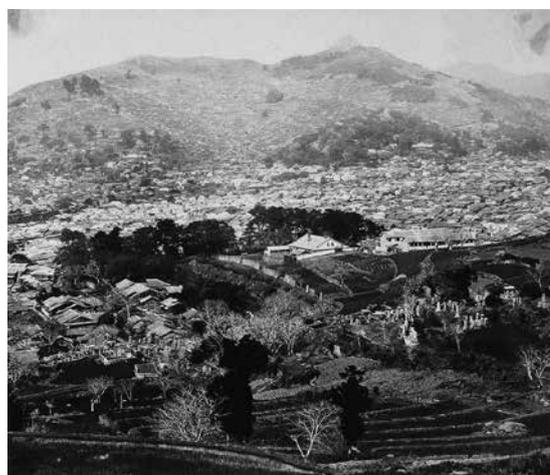


写真5 分析窮理所（写真中央の白い三角屋根の建物）  
「長崎大学附属図書館所蔵」本写真の無断複製・転用を禁止します。

ナイザーとし、オランダの化学者と共に「第7回ハラタマワークショップ」が長崎市ブリックホールで開催され（写真6）、長崎大学薬学部から山吉教授、石原教授、川上教授などによる最新の研究成果について講演と討論が行われた。5月12日の閉会式では、パトリシア・ダンカース教授（アイントホーフェン工科大学）から次回ハラタマワークショップの開催に言及があり、分析窮理所－ハラタマ博士を縁として、今後も日蘭の学問的な交流を持続させる意向が示された。

薬学史としても意義深い本遺構の長崎大学薬学部教育への取り込みについては、西田薬学部長の指示のもと2021年の前期科目「初年次セミナー」において、新入生に対して長崎大学薬学部への誇りを感じてもらうための「小島養生所跡資料館・分析窮理所跡地」や「下村脩名誉博士顕彰記念館」見学とその歴史的意義調査に関する能動的学習を含む、新たなプログラムの構築が行われ、現在、新入生は遺構見学を活用して、薬学史としても貴重な長崎大学薬学部と医学部が歩んできた歴史を学んでいる。

2023年4月長薬同窓会役員会において、本多雅幸幹事（昭62）より年に一回の分析窮理所記念碑の清掃活動が提案され、2023年度長薬同窓会理事会・総会でも承認された。本事業を実行に移していくため、山口会長と実践薬学研究室中嶋幹郎教授・副会長（昭57）からの依頼を受けて2023年8月26日（土）に川上教授・副会長は薬剤学研究室麓伸太郎准教授と共に分析窮理所記念碑を訪問し、土曜日夕方における記念碑周辺の状況を観察したが、仁田佐古小学校の門の中に記念碑が保存されており、門を開けて小学校の中に入ることが躊躇される状況であった。そこで本状況を山口会長と中嶋教授・副会長に報告した後、長薬同窓会事務局を介して分析窮理所記念碑の同窓会による清掃活動の可否について、仁田佐古小学校に対して問い合わせを行った。その結果、原則、平日や休日を問わず、門を開けて中に入るとは差し支えなく、事前に仁田佐古小学校教頭先生に日時の連絡をすれば清掃活動と写真撮影をして良いという回答が得られた。2024年度からの事業として具体的に清掃方法について議論していく予定である。9時から17時の時間帯であれば、分析窮理所跡地の近くに建設された「小島養生所跡資料館」の訪問ができる<sup>8</sup>。入場料は無料で毎週月曜日（祝日の場合は開館）と12月29日～1月3日が休館となっている。長薬同窓会の皆様も是非一度、長崎大学薬学部の起源である分析窮理所跡地に立ち寄ってみて頂きたい。

以上、分析窮理所遺構の発掘からの長薬同窓会の対応や完成した年表についての大まかについて説明した。遺構発掘当時、長薬同窓会長として本事業を主導して頂いた山中國暉元会長に心より感謝を申し上げる。また、分析窮理所遺構保存活動から年表作成、記念碑の建立に至るまでご協力とご配慮いただいた長薬同窓会、長崎大学薬学部、長崎大学医学部・長崎医学同窓会、長崎大学病院、長崎市の関係者の皆様に深く感謝する。分析窮理所の系譜を正式に受け継いだことを契機として、母校長崎大学薬学部が益々発展していくことを心より祈念したい。



写真6 長崎市ブリックホールで開催された第7回ハラタマワークショップ (The 7th Gratama Workshop) (2023年5月10-12日)

#### 参照資料

1. 長崎大学薬学部 沿革  
<https://www.ph.nagasaki-u.ac.jp/outline/enkaku.html>
2. 長崎市ホームページ 長崎（小島）養生所跡  
<https://www.city.nagasaki.lg.jp/shimin/190001/192001/p030549.html>
3. 長崎大学医学部ホームページ 「小島養生所」遺構について  
<https://www.med.nagasaki-u.ac.jp/med/iko/>
4. 金沢大学薬学部ホームページ 沿革  
<https://www.p.kanazawa-u.ac.jp/educate/history.html#gsc.tab=0>
5. 第18改正日本薬局方 日本薬局方沿革略記  
<https://www.mhlw.go.jp/content/11120000/000788359.pdf>
6. 二宮一彌 日本薬局方物語 薬学図書館 39(1), 21-27, 1994
7. 長崎大学薬学部ホームページ 沿革  
<https://www.ph.nagasaki-u.ac.jp/history/research/intro.html>
8. 長崎市ホームページ 長崎（小島）養生所資料館  
<https://www.city.nagasaki.lg.jp/shimin/190001/192001/p034438.html>

#### 参考資料

- a. 金沢大学薬学部 HP <https://www.p.kanazawa-u.ac.jp/educate/history.html#gsc.tab=0>
- b. 東京大学薬学部 HP <https://www.f.u-tokyo.ac.jp/about/>
- c. 東京薬科大学 HP <https://www.toyaku.ac.jp/about/history/>
- d. 名古屋市立大学薬学部 HP  
<https://www.nagoya-cu.ac.jp/70years/meishidai-history/academics/grad-phar/chronology/>
- e. 京都薬科大学 HP <https://www.kyoto-phu.ac.jp/compendium/history/>